



一 緑飼給與の必要

## 積雪地における緑飼の給與と

# 燕麥ベツチの混播

中野富雄

あるが、これらの混播は出穂期と開花期も略一致し、ベツチ、豌豆は燕麥に纏絡して良く伸長し、燕麥の多取とコンモンベツチ、豌豆の含有蛋白質が調和してきわめて価値のある青刈飼料となる。またベツチ、豌豆は燕麥によつて早春発芽当初の寒さや風から保護され、さらに土壌、水、養分の利用も浅根の燕麥と深根のベツチとで有利に行われる等幾多の利点をもつてゐる。播種は融雪後できる限り早々に行つてよ

生草のまま圃場から収穫されてそのままの形で家畜にあたえられる飼料作物を青刈作物といい、青刈作物を主体とした給飼法を青刈法または緑飼法という。緑飼の給與は放牧について最も原始的な給飼法であるが、家畜の最も好ましい、しかも營養的に全く損失なき形であたえられ、乾草やサイレージ等のごとく手数及び費用をかけずかつ天候にも比較的左右されず、また放牧のごとく粗放とならず残りなく利用されるので、わが国のごとき農業条件下ではきわめて恰適した給飼法である。

したがつてわが国暖地ではほとんど年間を通じて飼料の大部分がこの緑飼法に頼つており、積雪地でも夏季の候にはいかにして連続的に緑飼をあたえるかが、経営者の苦心するところとなつてゐる。

青刈のための労力は農作業の多忙な期間であるから問題とはなるであろうが、飼料の経済的な自給の面からも、また家畜の健康及び生産の向上の面からでもできるだけ緑

飼を連続的にあたえたいが、必要な期間に必要な量を過不足なしに緑飼材料を生産し、しかもそれが榮養的にも家畜の嗜好の面からも、經營的な観点からも遺憾のないようにするためには、青刈作物の選定とその栽培利用法を十分検討してかからねばならない。

特に積雪地では長い冬期間は、どうしても家畜は日光や運動不足とともに緑飼の欠乏から榮養的にも偏りやすく、これがためサイレージや根菜が豊富に貯蔵されたとしても、長い冬が終つて春を迎えた時は、一刻も早く新鮮な緑飼を与えたいものである。

積雪地と雖も夏季は各種飼料作物の生育は旺盛であるから、緑飼の連続給與も作物の選択配合に宜敷きを得れば可能である。(表参照)

一の一番刈に入りその後はこちらら牧草の二番刈、晩夏から初秋にかけてのボンキン、続いて玉蜀黍、スーダングラス等の青刈、根菜と初冬まで連続給與されるわけであるが、牧草類の一、二番刈の間である六月下旬から七月中旬の間はとかく青刈の欠乏する時期である。

この時期に恰適な青刈飼料でしかも今春早速播種できるものに、燕麥とベツチ(豌豆)類の混播がある。以下初夏の青刈としての燕麥ベツチの混播について若干書いてみる。

### 二 燕麥とベツチ、豌豆類との混播

早春に播種して、初夏の候に青刈の可能なきわめて短期間に旺盛な生育を期待できるものに燕麥とベツチまたは豌豆の混播が

考慮の必要がないのであるべく葉面積の大

## 牧草と園藝 二月號

### 目次

- ◇表紙写真……新雪に輝く雪印上野幌育種場
- ◇養蚕に桑園、養畜には草園……田垣住雄
- ◇積雪地における緑飼の給與と  
燕麥ベツチの混播……中野富雄……一
- ◇春播いてその年の内に数回放牧でき  
るスーダングラス……なかの……二
- ◇ルーサン(アルファルファ)の  
栽培とその利用……三浦梧楼……三
- ◇オーチャードグラス  
雪印改良一号の解説……上野幌育種場……五
- ◇わが家の飼料設計……中島康夫……六
- ◇今年の蔬菜の好評品種  
何をどう作つたらよいか……中原忠夫……八
- ◇雪印自慢の蔬菜優良品種特報……三